

2020年（令和二年）

10月30日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

10/15～10/21のNYMEX・WTI先物市場は、40.03～41.46ドルの範囲で推移した。

10月22日は、米国新規失業保険申請件数が市場予想を下回り減少、景気回復への期待感が高まり、また、プーチン露大統領が新年からの協調減産緩和の先送り示唆への好感感から、反発した。12月限終値は前日比0.61ドル高の40.64ドル。

週末23日は、欧米の感染再拡大に対する警戒感から反落し、2週間ぶりに40ドルの大口を割った。12月限の終値は前日比0.79ドル安の39.85ドル。

週明け26日は、23日米国の新型コロナ感染者数が8万人を突破し過去最高を記録、仏でも感染者は初めて5万人を突破、イタリア・スペインでも新たな行動制限が導入されるなど、感染再拡大が懸念、他方、内戦のためOPECプラスで減産免除されていたリビアで、政府側と反政府側が停戦に合意、国営石油会社は4週間以内の100万b/dの輸出回復を発表したことから、需給緩和感が拡大し大幅続落した。12月限終値は前週末比1.29ドル安の38.56ドル。

27日は、ハリケーン「ゼータ」が熱帯低気圧に勢力を弱めたものの、メキシコ湾岸の石油施設に接近しており、供給障害への懸念から、3営業日ぶりに反発した。12月限の終値は前日比1.01ドル高の39.57ドル。

28日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で23日までの原油在庫は前週比430万バレル増と市場予想を上回る増加、また、欧米におけるコロナ感染の再拡大から、需給緩和懸念が高まり、大幅反落した。12月限の終値は前日比2.18ドル安の37.39ドル。

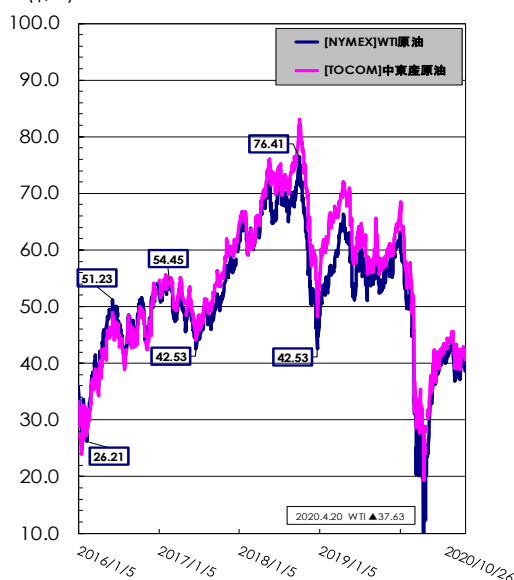
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）は10月15日～21日の間41.90～42.30ドルの範囲で推移した。10月22日40.90ドル、23日41.40ドル、26日39.80ドル、27日40.10ドル、28日39.80ドルと推移した。

為替は10月15日～21日の間105.26～105.59円の範囲で推移した。10月22日104.64円、23日104.70円、26日104.70円、27日104.81円、28日104.45円で推移した。

そのような中で、10月26日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油は同0.2円の値下がり、灯油は5円の値下がり（18%ベース）だった。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油は2週ぶりの値下がりとなり、灯油は3週連続の値下がりだった。この週（10月第4週）の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比1.0円の引き下げとなった。

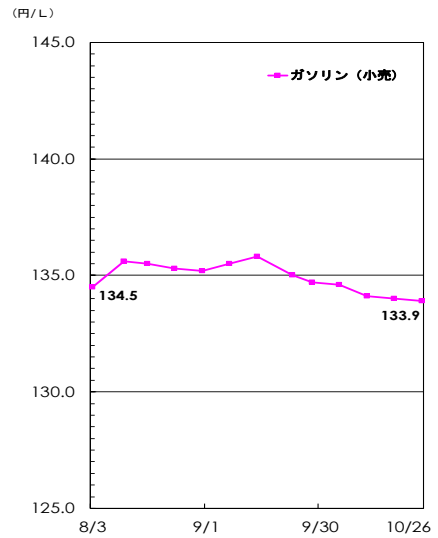
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/18 ~ 10/24	2,537 ▲75	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	65.9 ▲1.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/24	12,791 ▼368	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/26	40.70 ▼2.20	▼18.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/26	38.56 ▼2.27	▼17.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月下旬	46.28 ▼0.23	▼18.02
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	30,810 ▼196	▼12,320
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	105.86 ▲0.14	▲0.78
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/26	105.70 ▲0.70	▲4.10

(\$/b)



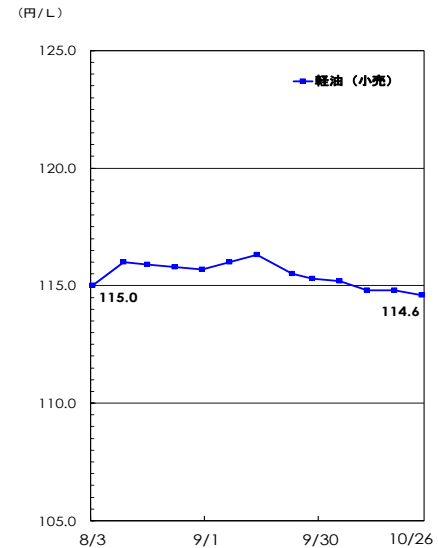
		(単位：千kl、円/%)			
ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/18 ~ 10/24	772 ▼ -40 ▲ -		
	輸入	"	n.a. n.a.		
	出荷	"	807 ▲ 27 ▼ -		
	輸出	"	0 ▼ -51 ▼ -		
	在庫	10/24	1,832 ▼ -36 ▲ -		
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/20 ~ 10/26	43.1 ▲ 0.1 ▼ -14.2		
	先物 [期近物/終値]	10/20 ~ 10/26	39.3 ▲ 0.1 ▼ -15.4		
	(TOCOM/中部)	10/26	40.8 ▼ -0.5 ▼ -15.2		
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/26	133.9 ▼ -0.1 ▼ -12.6		

※業転、先物価格は税抜き価格

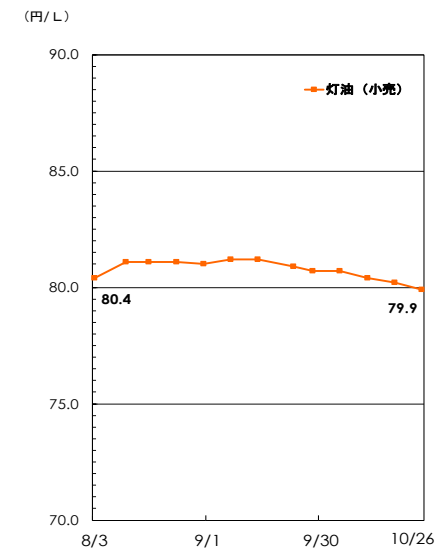


		(単位：千kl、円/%)			
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/18 ~ 10/24	621 ▲ 37 ▼ -		
	輸入	"	n.a. n.a.		
	出荷	"	611 ▲ 22 ▼ -		
	輸出	"	5 ▲ 5 ▼ -		
	在庫	10/24	1,580 ▲ 5 ▲ -		
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/20 ~ 10/26	45.6 ▲ 0.1 ▼ -14.3		
	先物 [期近物/終値]	10/20 ~ 10/26	46.7 ▼ -0.3 ▼ -14.2		
	(TOCOM/中部)	10/26	- - -		
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/26	114.6 ▼ -0.2 ▼ -12.5		

※業転、先物価格は税抜き価格



		(単位：千kl、円/%)			
灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/18 ~ 10/24	204 ▲ 2 ▼ -		
	輸入	"	n.a. n.a.		
	出荷	"	224 ▲ 36 ▲ -		
	輸出	"	44 ▲ 12 ▲ -		
	在庫	10/24	2,890 ▼ -65 ▲ -		
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/20 ~ 10/26	45.4 ▲ 0.2 ▼ -14.2		
	先物 [期近物/終値]	10/20 ~ 10/26	42.3 ▼ -0.1 ▼ -16.0		
	(TOCOM/中部)	10/26	43.6 ▼ -0.7 ▼ -16.4		
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/26	79.9 ▼ -0.3 ▼ -11.8		



■ 関連情報

1 海外/原油

10月28日のNYMEXのWTI先物原油は大幅反落した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で23日までの原油在庫は前週比430万バレル増と市場予想(同120万バレル増)を大きく上回る増加を示した。また、欧米におけるコロナ感染の再拡大の状況、欧米株式の不調も、売りを加速した。12月限の終値は前日比2.18ドル安の37.39ドルと今月2日以来の3週間ぶりの安値となった。1月限の終値は同2.15ドル安の37.72ドル。

EIAによると、10月26日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.7セント値下がりの1ガロン2.143ドル(59.8円/ℓ)、ディーゼルは同0.3セント値下がりの2.385ドル(66.5円/ℓ)

となった。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは2週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年10月18日～10月24日に休止したトッパ能力は68.2万バレル/日で、前週に対して5.8万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は253.7万klと、前週に比べ7.5万kl増加。前年に対しては59.5万klの減少。トッパ稼働率は65.9%と前週に対して1.6ポイントの増加、前年に対しては14.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリンが減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.9%減、ジェット/19.3%増、灯油/0.8%増、軽油/6.3%増、A重油/4.4%増、C重油/28.3%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.5万kl減)。軽油の輸出は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェットが減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は80.7万kl(対前週3.5%増)と2週連続で増加した。ジェット8.0万kl(対前週2.5%減)、灯油22.4万kl(対前週19.5%増)、軽油61.1万kl(対前週3.8%増)、A重油19.6万kl(対前週34.5%増)、C重油19.7万kl(対前週67.0%増)。

(単位: 千KL)

	今週 (10/18 ~ 10/24)	前週 (10/11 ~ 10/17)	前週比	
ガソリン	807	780	▲ 27	(3%)
ジェット燃料	80	82	▼ -2	(-2%)
灯油	224	188	▲ 36	(19%)
軽油	611	589	▲ 22	(4%)
A重油	196	146	▲ 50	(34%)
C重油	197	118	▲ 79	(67%)
合 計	2,115	1,903	▲ 212	(11%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月24日時点の在庫は、ジェット、軽油、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは183.2万kl、前週差3.6万kl減。前年に対しては32.6万kl多い。

灯油は289.0万kl、前週差6.5万kl減。前年に対しては9.4万kl多い。

軽油は158.0万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては23.8万kl多い。

A重油は75.8万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては3.4万kl多い。

C重油は177.4万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては18.6万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (10/24)	前週 (10/17)	前週比	
ガソリン	1,832	1,868	▼ -36	(-2%)
ジェット燃料	835	824	▲ 11	(1%)
灯油	2,890	2,955	▼ -65	(-2%)
軽油	1,580	1,575	▲ 5	(0%)
A重油	758	753	▲ 5	(1%)
C重油	1,774	1,795	▼ -21	(-1%)
合 計	9,669	9,770	▼ -101	(-1.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月20日～26日の指標原油価格は前週比で値下がりし、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。

中東産油国国営石油会社の10月積み原油の調整金の引き下げもあり、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社1.0円の引き下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月20日～26日の製品スポット市況は、10月13日～19日平均と比べ、海上の灯油・軽油、先物の灯油・軽油の値下がりを除いて、他の取引でわずかに値上がりした。

直近(10/20～10/26)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(10/13～10/19)比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.1円の値上がりだった。直近(10/20～10/26)において、ガソリンは96～97円台でほぼ横ばい、灯油は45円台でわずかに値下がり、軽油は45円台で横ばいで推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(10/20～10/26)に、前週比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は0.8円の値下がり、軽油は0.2円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(10/20～10/26)に、ガソリンは98円台でわずかに値下がり、灯油は42～43円台で大きく値下がり後わずかに値上がり、軽油は47円台でわずかに値下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油も0.3円の値下がりだった。先物価格は、同期間(10/20～10/26)に、ガソリン92～93円台で出入り後値下がり、灯油41～42円台で出入り後値下がり、軽油46～47円台で出入り後値下がりして推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	(陸上ローリー 4地区平均)	今週 (10/20～10/26)	前週 (10/13～10/19)	前週比
	レギュラー	43.1	43.0	▲ 0.1
	灯油	45.4	45.2	▲ 0.2
	軽油	45.6	45.5	▲ 0.1

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	(期近物/終値 [平均])	今週 (10/20～10/26)	前週 (10/13～10/19)	前週比
	レギュラー	39.3	39.2	▲ 0.1
	灯油	42.3	42.4	▼ -0.1
	軽油	46.7	47.0	▼ -0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/20～10/26実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.1	
灯油	▲ 0.2	▼ -0.1	▲ 0.1	
軽油	▲ 0.1	▼ -0.3	▼ -0.1	
A重油	▲ 0.1			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の133.9円、軽油は同0.2円安の114.6円、灯油は18ℓベースで同5円安の1,438円(1ℓベースでは79.9円で同0.3円安)。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油は2週ぶりの値下がり、灯油は3週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは12県、横ばいは7県、値下がり28都道府県となった。全国最安値は127.0円の徳島県(前週比0.5円安)、その次に安かったのは127.2円の滋賀県(同0.6円安)、最高値は143.7円の大阪府(同0.1円高)だった。最も値上がりしたのは、同1.2円高の沖

縄県(141.8円)、横ばいは長野県等7県、最も値下がりしたのは、同1.0円安の宮崎県(138.1円)だった。

今週(10月20日～26日)は、指標原油価格は値上がりし、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。次週(10月29日～11月4日)適用の元売の卸価格は、中東産油国国営石油会社の10月積み原油の調整金引き下げもあって、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の引き下げとなった。次回調査時(11月2日)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが見込まれる。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)		
小 売 価 格	[週動向]	今週 (10/26)	前週 (10/19)	前週比
	レギュラー	133.9	134.0	▼ -0.1
	灯油	79.9	80.2	▼ -0.3
	軽油	114.6	114.8	▼ -0.2

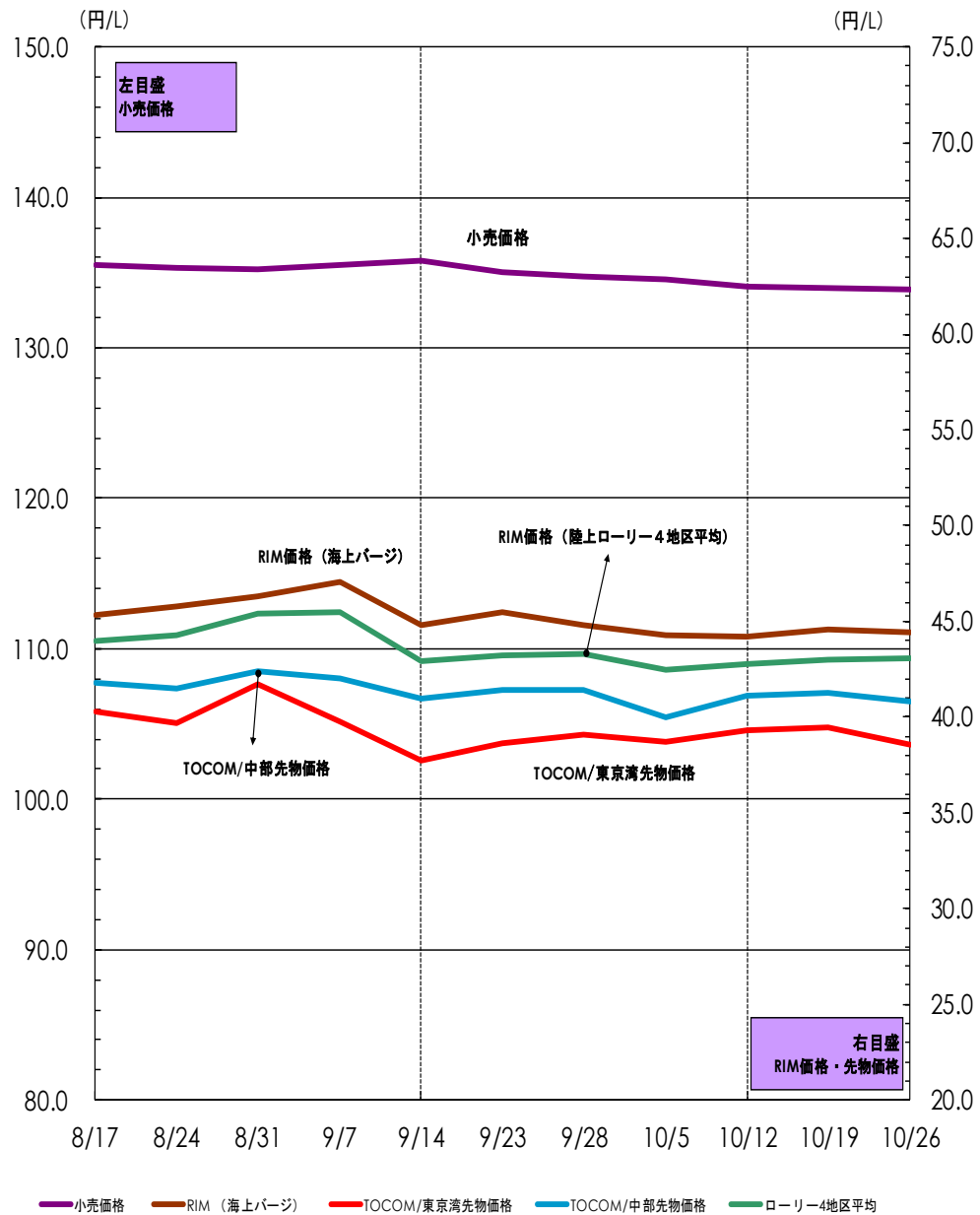
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/8/17 ~ 2020/10/26)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第18号)の公表は、11/6(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。